

京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

(3年計画の3年目)

1. 研究課題

アジアにおける人種主義の連鎖と転換

Chain Reactions and Transformations in the Meanings of Racism in Asia

2. 研究代表者氏名

竹沢泰子

Yasuko Takezawa

3. 研究期間

2016年04月 - 2019年03月 (3年度目)

4. 研究目的

従来の人種主義の研究の大半は、非「白人」であるマイノリティ集団を主たる研究対象としてきた。しかし、日本やアジアにおける人種主義は、そのような皮膚の色で分類する単純な構図には収まらない。例えば、「白人」ではない「日本人」が行為体となった場合、身体的に不可視の人々を、自己・他者の差異化によって人種化するプロセスとメカニズムが見受けられる。さらにそのような不可視の人々と「白人」に対する両義的なまなざしが交錯し、アジアにおける人種主義は屈折した複雑性を見せている。本共同研究では、他地域との比較を射程に含めながら、知識人言説、大衆文化、科学言説等を検証し、アジアにおける人種主義の連鎖と意味転換のプロセスとメカニズムを解明する。

5. 本年度の研究実施状況

本年度は大きく分けて以下の5つの活動を中心に実施した。1) 2016年に刊行した「人種神話を解体する」計3巻の最後の成果公開イベントとして、第1巻「可視性と不可視性のはざままで」の執筆者による連続セミナーを計3回人文研アカデミーとして行った。2) 国際共同研究を含めた「新・可視性と不可視性のはざままで」の連続セミナーを計2回人文研アカデミーとして行った。その際、外国人招聘研究者からも協力をえた。3) 国際シンポジウム「環太平洋の日系ディアスポラ・アート～マイナー・トランスナショナルリズムにみる遭遇と想像」を人文研アカデミーとして行った。この成果は、内容を差異化して海外の二つの雑誌において2019年および2021年に特集号を組むことが決定している。この他、米国日系人に関して、ゲストを招き2回研究会を行った。4) 人種・民族のカテゴリーを用いた遺伝子検査ビジネスについて、海外から2度ゲストを招き、文理融合での研究会を6回行った。5) 環太平洋地域における人種主義をめぐる論文集刊行に向けて、合宿を行った。本年度で共同研究(B)は終了するが、この3年間に於いて積み重ねてきた研究や議論を、次年度から成果として発表していく予定である。

6. 研究成果の概要

研究班として、国際シンポジウム「トランスパシフィック日系ディアスポラアート」や「Visibilities and Invisibilities Part II」、またセミナー「人種神話を解体する」出版記念連続セミナー(1巻、2巻、3巻、計12回)などを開催し、研究成果の社会還元を積極的に行った。出版物としては、本年度中に、1)『環太平洋における移動と人種』(共編)、2) Amerasia Journal Forum-Trans-Pacific Japanese Diaspora Art (共編)、3) Politika Circulations et métamorphose du racisme et de l'antiracisme (共編) 4)『人文学報 特集号 人種主義と反人種主義の越境と転換』(共編)を刊行する予定である。

7. 本年度の研究実施内容

2018-04-12 第1回研究会

文理融合班研究会 13年間、3度にわたる「遺伝子検査ビジネス」に関する研究班を主宰して

発表者 高田史男 北里大学

NPO 法人個人遺伝情報取扱協議会の設立とその後

発表者 堤正好 株式会社エスアールエル

2018-05-19 第2回研究会

人文研アカデミー2018「人種神話を解体する—可視性と不可視性のはざままで」出版記念 連続セミナー@人文研 第1回「被差別部落の表象」

差異と差別の(不)可視化をめぐって

発表者 竹沢泰子

見えない差異と映像表現の問題

発表者 斉藤綾子 明治学院大学

2018-06-02 第3回研究会

人文研アカデミー2018「人種神話を解体する—可視性と不可視性のはざままで」出版記念 連続セミナー@人文研 第2回「創られた人種」の可視化」

アイヌの<血>が意味するもの

発表者 関口由彦 成城大学

「国民の物語」再考—部落問題認識における本質論を超えて—

発表者 吉村智博 国際日本文化研究センター

2018-06-16 第4回研究会

人文研アカデミー2018「人種神話を解体する—可視性と不可視性のはざままで」出版記念 連続セミナー@人文研 第3回「新人類主義の現在(いま)・座談会」

「ジプシー」の可視化と新人種主義

発表者 岩谷彩子

座談会

発表者 岩谷彩子

発表者 関口由彦 成城大学

発表者 斉藤綾子 明治学院大学

発表者 田辺明生 東京大学

- 発表者 竹沢泰子
- 2018-07-07 第5回研究会 歴史・文化班 合宿
- 発表者 徳永悠
- 発表者 平野克也 カリフォルニア大学ロサンゼルス校
- 発表者 竹沢泰子
- 発表者 関口寛 四国大学
- 2018-07-08 第6回研究会 歴史・文化班 合宿
- 発表者 内野クリスタル
- 発表者 吉村智博 国際日本文化研究センター
- 発表者 鬼丸武士 九州大学
- 発表者 田辺明生 東京大学
- 2018-07-19 第7回研究会 文理融合班研究会
- 13年間、3度にわたる「遺伝子検査ビジネス」に関する研究班を主宰して
- 発表者 高田史男 北里大学
- 萌芽的科学技术を巡る語られ方と社会的含意の探索の試み
- 発表者 標葉隆馬 成城大学
- 2018-09-29 第8回研究会 人文研アカデミー2018・国際シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざままで part1』
- Racialization, the Carceral State & the Articulation of Multiple Alterities
- 発表者 Faye V. Harrison イリノイ大学
- Imitation Game”: Rachael Dolezal, Martina Big, “Transracial,” “Transgender,” and the Selective Reification of Authenticity in the Discourse of “Outrageous” Others
- 発表者 John G. Russell 岐阜大学
- The African Diaspora in Europe: New Visibilities and Invisibilities
- 発表者 Stephen Small カリフォルニア州立大学バークレー校
- コメンテーター 徳永悠
- 司会 竹沢泰子
- 2018-10-12 第9回研究会 人文研アカデミー2018・シンポジウム『新・可視性と不可視性のはざままで part2』 テーマ:アジアとヨーロッパの被差別民
- 河原者、ユダヤ人、ジプシー— 中世の「特権」言説—
- 発表者 竹沢泰子
- 部族民と不可触民 — インドにおける差別の諸形態 —
- 発表者 田辺明生 東京大学
- 2018-10-31 第10回研究会
- 公開講演 NHKドキュメンタリー制作者が見た「日系アメリカ人 栄光と苦難の150年」
- 発表者 小山靖史 NHKエンタープライズ
- 2018-11-10 第11回研究会 文理融合班研究会
- Consumer Genetics

発表者 Alexandro Marcon トロント大学

発表者 永井健太郎 早稲田大学

2018-11-12 第12回研究会 文理融合班研究会

メディア分析の方法論をめぐって

発表者 Alexandro Marcon トロント大学

発表者 永井健太郎 早稲田大学

発表者 田中幹人 早稲田大学

発表者 標葉隆馬 成城大学

2018-11-18 第13回研究会 歴史・文化班研究会

「人種」から宗教の差異へ: イギリスの多文化主義と「ムスリム」の可視化

発表者 渡辺紀子 立命館大学・非常勤講師

Racialization(人種化)する、ということ、そして研究者としての責任

発表者 玉野井麻利子 カリフォルニア大学ロサンゼルス校

2018-12-08 第14回研究会 国際シンポジウム「環太平洋の日系ディアスポラ・アート～マイナー・トランス

ナショナリズムにみる遭遇と想像」

Flows and Intersections in the Transnational, the Postcolonial, and the Multicultural for the artist Fung Sok Ro

発表者 Yong Soon Min カリフォルニア大学アーバイン校

The Principled Journey of Artist and Activist Mitsu Yashima (1908-1988)

発表者 Valerie Matsumoto カリフォルニア大学ロサンゼルス校

「日本」画家、谷口富美枝(1910-2001):彼女にとって「越境」とは何か?

発表者 北原恵 大阪大学

Contact Zones and Liminal Spaces in Recent Works by Yamashiro Chikako and Soni Kum

発表者 Rebecca Jennison 京都精華大学

Ancestral Cartography: Transpacific Interchanges and Okinawan Indigeneity

発表者 Laura Kina デイポール大学

Transnational perspectives of Nippo-Brazilian Artists: Kenzi Shiokava and Sachiko Koshikoku

発表者 Michiko Okano サンパウロ国立大学

戦後とポスト9/11～井上葉子の作品にみるメジャー/マイナー・トランスナショナリズム

発表者 竹沢泰子

コメンテーター 片岡真実 森美術館

コメンテーター Lon Kurashige 南カリフォルニア大学

コメンテーター 小勝禮子 京都造形芸術大学・非常勤講師

コメンテーター Gayle K. Sato 明治大学

コメンテーター 中嶋泉 首都大学東京

2019-01-05 第15回研究会 文理融合班研究会 合宿

発表者 Tim Caulfield トロント大学

発表者 永井健太郎 早稲田大学

発表者 田中幹人 早稲田大学

発表者 標葉隆馬 成城大学

発表者 徳永勝士 東京大学

発表者 田辺明生 東京大学

発表者 竹沢泰子

発表者 太田博樹 北里大学

発表者 武藤香織 東京大学

2019-01-06 第16回研究会 文理融合班研究会 合宿

発表者 Tim Caulfield トロント大学

発表者 永井健太郎 早稲田大学

発表者 田中幹人 早稲田大学

発表者 標葉隆馬 成城大学

発表者 徳永勝士 東京大学

発表者 田辺明生 東京大学

発表者 竹沢泰子

発表者 太田博樹 北里大学

発表者 武藤香織 東京大学

2019-03-25 第17回研究会 公開セミナー

The Blossoming of Nikkei Australian Literature

発表者 Lyle De Souza

John Okada and The Great Nisei Novel

発表者 Frank Abe ラジオ番組プロデューサー

8. 共同研究会に関連した公表実績

学術書シリーズ『人種神話を解体する』(編集責任 竹沢泰子)(東京大学出版会、2016年)・第1巻 斉藤綾子・竹沢泰子編著『In(Visibility): 可視性と不可視性のはざままで』・第2巻 坂野徹・竹沢泰子編著『Knowledge: 科学と社会の知』・第3巻 川島浩平・竹沢泰子編著『Hybridity: 「血」の政治学を越えて』。Trans-Pacific Japanese American Studies: Conversations on Race and Racializations, ed. Yasuko Takezawa and Gary Y. Okihiro. University of Hawai'i Press, 2016. 英文学術雑誌特集号 Japanese Studies 35:1, Special Issue: Rethinking Race/Racism from Asian Experiences (Koichi Iwabuchi, ed.) . “Human Genetic Research, Race, Ethnicity and the Labeling of Populations: Recommendations based on an interdisciplinary workshop in Japan” (Yasuko Takezawa, Kazuto Kato, Hiroki Oota, Timothy Caulfield et al.) BMC Medical Ethics, 2014. 『人文學報』100号(特集: 差異の表象)竹沢泰子編、京都大学人文科学研究所、2011年。Racial Representations in Asia, ed. Yasuko Takezawa. Kyoto University Press, 2011. 他、報告書20冊

9. 研究班員

所内

石井美保、瀬戸口明久、徳永悠

学内

川上浩司(大学院医学研究科)、佐野亘(大学院地球環境学堂)、Caroline Hau(東南アジア研究所)

学外

田辺明生(東京大学)、太田博樹(北里大学)、鬼丸武士(九州大学)、坂野徹(日本大学)、篠田謙一(国立科学博物館)、関口寛(四国大学)、瀬口典子(九州大学)、徳永勝士(東京大学)、成田龍一(日本女子大学)、舟橋健太(龍谷大学)、吉村智博(大阪人権博物館)、John Russell(岐阜大学)、渡辺紀子(立命館大学)、崔徳孝(ケンブリッジ大学)、Arnaud Nanta(フランス国立科学研究センター(CNRS))、Mark Winchester(神田外国語大学)

10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	1	2 (1)	0	0	0	19 (11)	0	0	0
学内	1	2 (2)	0	0	0	3 (3)	0	0	0
国立大学	4	7 (3)	0	0	0	19 (6)	0	0	0
公立大学	1	1 (1)	0	0	0	1 (1)	0	0	0
私立大学	10	15 (7)	0	0	0	30 (8)	0	0	0
大学共同利用機関法人	1	1 (0)	0	0	0	2 (0)	0	0	0
独立行政法人等公的研究機関	0	0	0	0	0	2 (0)	0	0	0
民間機関	4	4 (1)	0	0	0	5 (1)	0	0	0
外国機関	8	11 (6)	9 (5)	0	0	14 (6)	11 (5)	0	0
その他	0	0	0	0	0	237 (109)	31 (0)	0	36 (0)
計	30	43	9	0	0	330	42	0	36

		(21)	(5)			(145)	(5)		(0)
--	--	------	-----	--	--	-------	-----	--	-----

※()内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数

参加研究者がファーストオーサーであるものを対象

総論文数	4(0)
国際学術誌に掲載された論文数	2(0)

※()内には、拠点外の研究者による成果(内数)を記載

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由

なし

13. 次年度の研究実施計画

なし

14. 次年度の経費

なし

15. 研究成果公表計画および今後の展開等

最終報告書に記載